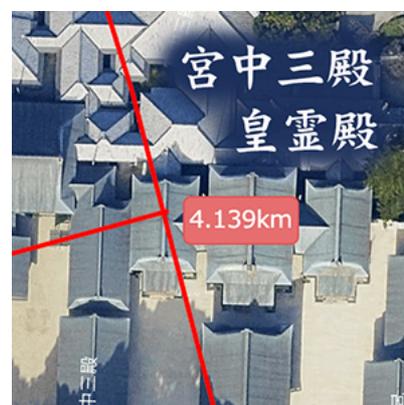


東郷神社と乃木神社

東郷神社



■ 靖国神社 ←← 4.139km ←← 東郷神社 →→ 4.139km →→ 宮中三殿 皇靈殿

■ 東郷神社

東郷平八郎が昭和9年(1934年)5月30日に亡くなると、全国から海軍省に東郷を顕彰する神社の創建の要望と献金が相次いだ。当時の海軍大臣大角岑生が財団法人東郷元帥記念会を設立し、寄せられた献金によって神社の創建が計画された。昭和12年(1937年)9月に地鎮祭、昭和15年(1940年)5月27日(海軍記念日)に御鎮座祭が行なわれ、同時に府社に列格した。昭和20年(1945年)には別格官幣社への昇格がほぼ決まりかけていたが、東京大空襲によって社殿が焼失し、昇格は断念された。戦後になって復興の機運が高まり、昭和33年(1958年)に奉賛会が結成さ



れ、昭和 39 年（1964 年）に社殿が完成した。平成元年（1989 年）2 月 3 日には東郷神社爆破事件が起きている。

東郷 平八郎（弘化 4 年 12 月 22 日（1848 年 1 月 27 日） - 昭和 9 年（1934 年）5 月 30 日）は、日本の幕末から明治時代の薩摩藩士、軍人。階級は元帥海軍大将。日清戦争では「浪速」艦長として高陞号事件に対処。日露戦争では連合艦隊司令長官として旗艦「三笠」で指揮を執り、「陸の乃木 海の東郷」「アドミラル・トーゴー」「東洋のネルソン」と英雄視された。各地の東郷神社に名を残す。

死後東京都渋谷区と福岡県宗像郡津屋崎町（現福津市）に「東郷神社」が建立され神として祭られた。ただし東郷自身は生前乃木神社建立の時、（陸軍に対抗するために）将来自身を祭る神社の設立される計画を聞いて驚き、「やめてほしい」と強く懇願したが、願いは聞き入れられず結局神社は建立されている。墓所も生前、母親の益子の眠る青山墓地への埋葬を希望したがこれも聞き入れられず多磨霊園に埋葬されることとなった。また銅像が長崎県佐世保市の旧海軍墓地東公園と鹿児島県鹿児島市の多賀山公園にある。東京都府中市には別荘地に建立された東郷寺があり、桜の名所である。

東京都渋谷区神宮前 1 丁目 1-5-3 ※写真は Wikipedia より抜粋

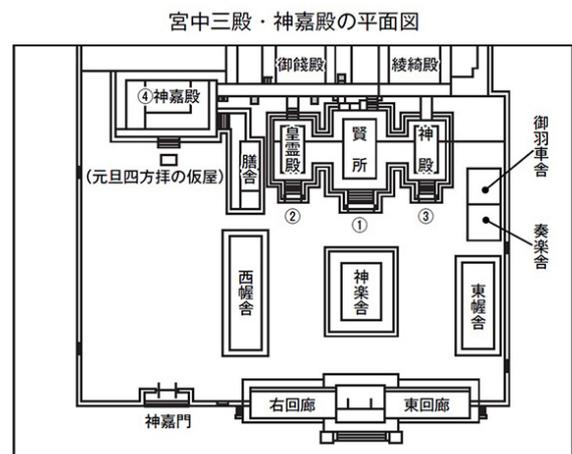
■皇居宮中三殿賢所

1889 年(明治 22 年)1 月 9 日：現在地に遷座。現在の社殿を造営。

宮中三殿は、皇居内にある三つの連結された建造物の総称である。それぞれ、神道の神を祀っており、宮中祭祀（皇室祭祀）の中心となる。宮中三殿の構内には、附属するいくつかの建造物が配置されている。

四方拝、新嘗祭が行われる**神嘉殿**（しんかでん）、鎮魂祭や天皇皇后の装束への着替えが行われる綾綺殿（りょうきでん）、神楽が行われる神楽舎（かぐらしゃ）、楽師が雅楽を演奏する奏楽舎（そうがくしゃ）、列席者が待機する左幄舎（ひだりあくしゃ）と右幄舎（みぎあくしゃ）、賢所に正対する賢所正門、新嘉殿に正対する新嘉門などである。

宮中三殿の祭祀は、明治維新から宮中祭祀の変遷と漸次的集約を経て、教部省が成立した直後の明治 5 年 4 月 2 日（1872 年 5 月 8 日）に整ったと解されている。



賢所

賢所には皇祖神天照大神を祀る。その御霊代である神鏡（八咫鏡の複製）が奉斎されている。また「かしこどころ」と読んで神鏡そのものを指すこともある。古代より宮中で祭祀された。掌典及び内掌典が御用を奉り、「忌火」（「神聖な火」の意味）を護り続けるとされる。平安時代は温明殿（うんめいでん）、鎌倉時代以後は春興殿にあった。古代から続くという宮中祭祀が行われ、現在の皇后、皇太子妃など皇族の妃らを宮中に迎える結婚の儀もここで行われた。その際、后妃が賢所を退出した際に婚姻成立とみなされる。神聖な場所のため穢れを嫌い、「次清」の別などの厳格な規律があるという。

なお、宮中三殿のうち賢所は古代から宮中で奉斎されてきましたが、**皇霊殿**と神殿は、明治維新以降の宮中祭祀制度の再編成によって新たに宮中に遷座・奉斎されたものです。

神殿

天神地祇八百万神が奉斎されている御殿で、明治5年3月に神祇省の廃止と共に宮中に遷座したのがその始まりで、三殿の中では最も後に成立しました。前項で記しましたように、明治2年6月、明治天皇は国是の確立を、天照大御神はじめ天神地祇八百万神と、神武天皇から孝明天皇に至るまでの歴代天皇の皇霊に御奉告のため、神祇官に霊代を設け招き祭らしめられ、御拝されました。そして同年、神祇官に神殿を設ける事が決まり、同年12月に仮神殿が竣工し、その中央の座に八神を、東の座に天神地祇を、西の座に歴代天皇の皇霊がそれぞれ奉斎され、鎮座祭が斎行されました。

明治4年8月、神祇官が廃され神祇省が置かれ、それに伴い神祇省に継承された神殿（西の座）に奉斎されていた歴代天皇の皇霊は宮中賢所に奉遷されましたが、八神と天神地祇は引き続き神祇省の神殿にお祀りされました。しかし、翌5年に神祇省が廃止され新たに教部省が置かれる事になり、そのため同年3月、神祇省神殿に奉斎されていた八神と天神地祇を宮中に遷し仮に賢所拝殿に奉安せしめ給う旨仰せ出され、それを受けて同年4月、神祇省の神殿に奉斎されていた八神と天神地祇、及び京都の神祇伯白川家、神楽岡の吉田家斎場、有栖川宮家の旧邸と新邸にそれぞれ鎮座されていた八神を、御羽車に移し、賢所拝殿に奉遷しました。翌5年、八神と天神地祇の両座を合祀して一座とし、「神殿」と改称され、これによって現在の宮中三殿の原型が成立しました。

東京都千代田区千代田1-1

現在の宮中祭祀の概要

皇室の祭祀は、多くが皇居吹上御苑の御所に近い「宮中三殿」において営まれます。その内容は天皇や皇室のための私的な祈願ではなく、国家・国民全体のため（さらには世界・人類のため）に祈りを捧げられるものです。

宮中三殿とは、中央に（イ）皇祖神の天照大神を祀る「賢所かしこどころ」、その西に（ロ）歴代天皇・皇族を祀る「皇霊殿」、その東に（ハ）全国の天神・地祇を祀る「神殿」を指しますが、（ロ）より西側の（ニ）新嘗祭のみに使われる「神嘉殿」も含まれます。

ここで行われる宮中祭祀の基本的な形体は、明治41年（1908）公布の「皇室祭祀令」に定められています。それは古代以来の神道祭祀をベースにしなが、近代的な国家的祭儀を織り込んだもので、詳細な「付式」（実施細則＝マニュアル）まであります。

そのため、これは他の皇室令と一緒に、戦後（昭和22年5月）廃止されましたが、宮内庁の文書課長から、「新規定ができるまで、従前の例に準じて事務を処理する」との依命通牒が出されており、その後も宮中祭祀の準拠とされてきました。

宮中の祭祀は、大祭と小祭と他の行事に分けられます。まず大祭では、天皇が自ら祭主となって殿内（内陣）で御告文（祭文）を奏上されます。それに対して、小祭では掌典長（内廷職員）が祝詞を奏上し、天皇が内陣で拝礼されます。さらに、毎年3度の旬祭と毎朝御代拝があります。その他の行事というのは、大祭・小祭のような神饌（お供え）や御告文・祝詞のない、小祭に準ずる祭事です。（以下、略称 [大] [小] [行]）。

それを内容的に三分しますと、（一）年始・毎旬毎朝の拝礼、（二）自然神などに祈る祭祀、（三）祖先神などに祈る祭祀となり、各々次のような例があります。

（一）

正月の①四方拝 [行]、②歳旦祭 [小]、③元始祭 [大]、および毎月三旬の④旬祭と毎日早朝の⑤毎

朝御代拝

(二)

2月の⑥祈年祭 [大]、10月の⑦神嘗祭 [大]、11月の⑧新嘗祭および6月と12月の⑨節折よおり [行]と⑩大祓

(三)

⑪先帝祭= 昭和天皇祭 [大]、⑫紀元節祭 [臨時御拝]、⑬神武天皇祭 [大]、⑭孝明天皇例祭 [小]、⑮明治天皇例祭 [小]、⑯香淳皇后例祭 [小]、⑰大正天皇例祭 [小]、⑱天長祭、および⑲神武天皇と孝明・明治・大正各天皇と香淳皇后の式年祭 [大]、⑳それ以前の歴代天皇の式年祭 [小]、㉑代始め大礼関係祭祀、㉒皇族の人生儀礼関係祭祀、㉓春季の皇霊祭と神殿祭、㉔秋季の皇霊祭と神殿祭、㉕賢所御神楽 [小] など。

■靖国神社

祭神は、幕末から明治維新にかけて功のあった志士に始まり、1853年（嘉永6年）のペリー来航（所謂「黒船来航」）以降の日本の国内外の事変・戦争等、国事に殉じた軍人、軍属等の戦没者を「英霊」と称して祀り、その柱数（柱（はしら）は神を数える単位）は2004年（平成16年）10月17日現在で計 246万6532柱 にも及ぶ。

戊辰戦争終戦後の1868年（慶応4年）旧暦6月2日に、東征大総督有栖川宮熾仁親王が戦没した官軍（朝廷方）将校の招魂祭を江戸城西丸広間において斎行したり、同年旧暦5月10日に太政官布告で京都東山（現京都市東山区）に戦死者を祀ることが命ぜられたり（現京都霊山護国神社）、同旧暦7月10・11の両日には京都の河東操錬場において神祇官による1853年（嘉永6年）以降の殉国者を慰霊する祭典が行われる等、幕末維新时期の戦没者を慰霊、顕彰する動きが活発になり、そのための施設である招魂社創立の動きも各地で起きた。それらを背景に大村益次郎が東京に招魂社を創建することを献策すると、明治天皇の勅許を受けて1869年（明治2年）旧暦6月12日に現社地での招魂社創建が決定され、同月29日（新暦8月6日）に五辻安仲が勅使として差遣され、時の軍務官知事仁和寺宮嘉彰親王を祭主に戊辰の戦没者3,588柱を合祀鎮祭、「東京招魂社」として創建された。ただし、創祀時は未だ仮神殿の状態であり、本殿が竣工したのは1872年（明治5年）であった。



1865年、長州藩が奇兵隊の死者を祀るために建立した桜山招魂社が、靖国神社の起源である。その後、禁門の変、戊辰戦争などで戦死した長州軍の兵を合祀。明治維新後、明治天皇の上京にともない、天皇の錦の御旗が与えられることで、官幣の神社として靖国神社が設立された。

以上の経緯を踏まえると、靖国神社は、明治維新以降、実権を握った長州閥の意向が色濃く反映された神社だと言える。事実、会津藩家老を先祖に持つ右翼の大物・田中清玄は、靖国神社を「長州藩の守り神にすぎないもの」と切り捨てたという。

東北地方は、仙台第二師団のガ島玉砕、第36師団（雪部隊）のニューギニア玉砕はじめ、戦没者の多い地域だが、「靖国神社に参拝すべきだ」とする意見には異を唱える人が多い。「朝敵は弔わず」、これは賊軍に対する明治政府の一貫した姿勢だった。東北(奥羽列藩同盟)の犠牲者をはじめ、彰義隊、西南の役の西郷隆盛側などは、靖国はもちろん、日本各地の招魂社（護国神社）にも祀ることはなかった。

そして、薩長中心による富国強兵政策の一貫としての軍事強化推進が、その後の日清・日露・大東亜戦争につながったと見るのが自然だし、靖国はその精神的支柱として存在した。今なお、“明

治政府（官軍側）は素晴らしかったと絶対視”し、賊軍とされた地域のインフラ整備の後回しなど、東北蔑視政策が続くかぎり、多くの東北人が心から靖国神社を参拝する気持ちにはならないだろう。

そこには、薩長が天皇を人質同然にした当時の、「天皇陛下＝靖国神社だ。文句あるか」という、天皇の威光を利用するだけ利用した空気が流れている。それに比して、京都守護職を務めた会津藩主・松平保容は、孝明天皇から辰翰を賜り、正に官軍だった。明治26年12月5日松平保容公死後、辰翰の事実を知った明治政府は、この内容が公になれば、自分達が嘘で固めた歴史観が根底から覆えるとあわてた。

そして、明治政府は密かに大金で譲渡するように圧力をかけたが、会津藩・松平家はこれを頑強に拒否した。何度でも繰り返すが会津藩側が官軍、薩長土肥(明治政府)側が賊軍だったのだ。

それに薩長や岩倉具視らの戦略による錦旗の偽造や、孝明天皇の毒殺説も有力だ。これが薩長は「偽（にせ）官軍」と言われる理由であり、偽（にせ）官軍が天皇陛下の威光を利用するために作ったのが「靖国神社」という図式になる。

日本を再び戦争をする国家にさせようと企む人達にとっては「国のために命を捨てさせる」ための装置としてこの神社は象徴的な大きな意味をもつものなのでしょう。

<http://z-shibuya.cocolog-nifty.com/blog/2010/08/post-e1bb.html>

千代田区九段北3丁目1-1

- 第二次世界大戦の最中、パールハーバー攻撃の前年に東郷神社は建てられている。生前からあった神社創建の計画そのものは東郷は強く拒否していた。

↓

↓

↓

乃木神社



■ 惟神会 ←← 3.086km ←← 乃木神社 →→ 3.086km →→ 靖国神社

■ 乃木神社

乃木希典将軍と乃木静子夫人を祀る。大正2年(1913年)、東京市長だった阪谷芳郎が中心となって、乃木希典を敬慕する人々による中央乃木会を設立し、大正8年(1919年)、当社の創建を申請・許可され、大正12年(1923年)11月1日に鎮座祭が行われた。設計は大江新太郎が手掛けた。昭和20年5月の東京大空襲で焼失したが、新太郎の息子・大江宏の設計で昭和37年に復興した。昭和58年(1983年)には宏の長男・大江新と三男・昭によるコンクリート造の宝物殿が建てられ、焼け残った新太郎設計の手水舎と合わせて親子3代に渡る建築家の作品が一堂に会す。

乃木 希典 (のぎ まれすけ、嘉永2年11月11日(1849年12月25日) - 1912年(大正元年)9月13日) は、日本の武士(長府藩士)、軍人、教育者。日露戦争における旅順攻囲戦の指揮や、明

治天皇の後を慕って殉死したことで国際的にも著名である。大正元年（1912年）9月13日、乃木は明治天皇大葬が行われた日の午後8時ころ、妻・静子とともに自刃して亡くなった。享年64（満62歳）没。乃木の死去を受け、読売新聞のコラム「銀座より」では、乃木神社建立、乃木邸の保存、「新坂」の「乃木坂」への改称などを希望するとの意見が示された。その後、京都府、山口県、栃木県、東京都、北海道など、日本の各地に乃木を祀った乃木神社が建立された。

東京都港区赤坂8丁目1-1

■ 惟神会

岸 一太（きし かずた、1875年（明治7年）10月28日 - 1937年（昭和12年）5月8日）は、日本の医師、工学技師、宗教家。台湾総督府医院初代医長、台湾総督府医学校教授、関東都督府技師、帝都復興院技師などを務めたほか、飛行発動機の開発などで活躍するが、宗教団体を立ち上げ、精神病の判定をされるなど波乱万丈の一生を送った。



1917年大本に入信し、大本事件の公判では教主・出口王仁三郎の特別弁護人として法廷にも立った。

1928年に、「思想上の困難に直面する日本を救うには敬神宗祖の精神を鼓舞しなくてはならない」として、全国の神社を立て直し、国教の確立、民心の安定を目指して、渋谷町大和田（渋谷道玄坂上）に八意思兼神を主神とする神道系の新興宗教団体「明道会」を設立し、機関誌『国教』を月刊で発行、信者は関東から東北まで広がっていった。岸が衣冠束帯に身を包み、朝鮮人巫女の高大業が咽頭から発するピーピーという笛のような声を「明道霊児」なる霊媒の声であるとして降霊を行ない、除霊行為や霊写真の撮影などを、金を取ってしていたことから、1931年に詐欺罪で警視庁に検挙されるが、精神鑑定により誇大妄想患者と判定され、起訴を逃れた。次第にインテリ階級の信者が離れていったが、それでも2000人位の信者がいたという。明道会は当局の命令で解散したが、1934年に「惟神会」として再発足した。※Wikipediaより抜粋

東京都渋谷区桜丘町30-1-1

● 惟神会の門から玄関に向かう私道が靖国神社に向かっている。これが参道であり、その奥のマーカを置いたあたりに祭祀場があるのだと思う。建物そのものも靖国神社に向いている。



↓

↓



■ 統一教会 ←← 3.086km ←← 乃木神社 →→ 3.086km →→ 惟神会

■ 世界平和統一家庭連合本部

朝鮮半島のキリスト教の土壌から発生した新宗教団体である。文鮮明(1920年-2012年)によって、1954年に韓国で創設された。韓国の多くの少数派宗教団体と異なり、朝鮮半島を超えて世界中に普及したという特異性を持つ。旧名称は、世界基督教統一神霊協会である。日本では一般的に旧略称の統一教会と呼ばれる。「全キリスト教会を霊的に統合させる協会」を意味する。1964年に日本で宗教法人の認証を得た。統一教会旗下には、勝共連合という反共政治団体、純潔教育やジェンダーフリー・バッシングを行う市民運動体、統一教会信者向けの商品を製造販売する会社、信者が物販する商品を卸す会社、世界日報やワシントンタイムズという新聞社や信者向け出版を行う光言社という出版社、平和運動や社会事業に市民を勧誘するNGO・NPO組織など、様々な組織がある。統一教会の宣教活動には社会の規範意識や法律と軋轢のある部分が多く、宗教学者の櫻井義秀は、「教説の創唱性、教祖のカリスマ、教団内婚制という点だけを取り上げても、宗教学的には新宗教と定義して構わないし、再臨主を称する教祖を信奉する少数者の集団という意味では、宗教社会学的にはカルトと類型化される」述べている。

東京都渋谷区松濤1丁目1-2

● 統一教会の建物も靖国神社を向いている



(2016年12月)
(2026年2月再確認・修正)

竜天太陽 記